四国中央市

自主防災組織
結成の手引き

【問い合わせ先】
四国中央市危機管理部　危機管理課
２８－６９３４

１．自主防災組織とは？

自主防災組織とは、住民一人ひとりが「自分たちの命や地域は自分たちで守る」という考えに基づき、自主的に結成される組織で、隣近所の方々と力を合わせて地震等の災害による被害を予防し、また、軽減するための活動を行う組織のことで、自治会や町内会、青年団や婦人会など、日頃から地域活動を行っている組織を生かして結成されるのが一般的です。

２．自主防災組織の必要性

地震や風水害などによる災害が発生した場合には、市は防災関係機関と協力し総力を挙げて防災活動を行いますが、東日本大震災などの大規模災害が発生した直後は、市や消防など防災機関による対応（公助）が困難なことも予想されます。

このような場合には、地域の人たちがお互いに助け合い、人命救助や消火にあたることが被害をより少なくすることにつながります。そこで、自治会等の組織を活用して自主防災組織を結成し、日頃から災害に備えた防災訓練等を行っておくことが大切です。

３．平時の備え（活動）について

○　防災に対する心構えや啓発
　（研修会や出前講座への参加など）

○　災害発生の未然防止のための地域活動
　（広報誌の発行や地域の巡回など）

○　災害発生に備えて地域を知るための活動
　（避難場所や危険箇所の把握、防災マップの作成など）

○　災害発生時の活動を習得するための活動
　（消火、避難、情報伝達訓練など）

○　災害発生時の活動に備えるための活動
　（資機材の整備や備蓄品の管理など）

４．災害時の活動について

○　情報収集・伝達活動
（被害、救援情報の収集や伝達、防災関係機関との連絡など）

○　初期消火活動
（消火器による消火活動など）

○　避難誘導活動
（安否確認や要介護者への援助、避難誘導など）

○　救出救護活動
（負傷者の救出・救護や要援護者へのサポートなど）

○　避難所運営活動
（避難所の設営や運営など）

○　給食給水活動
（救援物資の受取・運搬・分配や炊き出しなど）

５．自主防災組織をつくるには

自主防災組織は、地域の皆さんが協議を行い組織結成に合意し、規約、組織、活動内容等を定めることで成立します。

自主防災組織の活動は、地域の皆さんが最も効果的に防災活動を行えるよう地域の実情に応じて、その規模や活動内容等を決めることが大切です。活動には、市や消防機関との連携が重要ですので、結成したら市役所へ届け出ましょう。

(1)　自治会など地域のなかで話し合いをしましょう
　①　どこまでの地域を対象とするか
　②　どのような活動を行うのか
　③　どのような組織にするのか　など

↓

(2)　自主防災組織の結成が決まったら、簡単な規約を定めましょう

↓

(3)　組織図（連絡体制表）や活動計画なども決めましょう

↓

(4)　市（危機管理部　危機管理課）へ届け出ましょう

〔提出書類〕
　①　規 約
　②　役 員 名 簿
　③　組 織 図
　④　活 動 計 画
　⑤　組 織 区 域 図　など

６．自主防災組織結成のポイント

①　どのような組織構成がよいか

災害時において、迅速かつ効果的な活動を行うためには、あらかじめ組織内の役割分担を決めておく必要があります。基本的には、本部を中心に、初期消火、避難誘導、救出・救護、情報収集・伝達、給食・給水などの各班を設置しておくことが好ましく、地域の実情などに応じて組織構成を考えることも大切です。

（組織構成例）

本　部

会　長
副会長
班　長

- 情報班（情報収集伝達・広報）
- 消火班（出火防止・消火活動）
- 救出救護班（負傷者等の救出・救護）
- 避難誘導班（避難所への誘導等）
- 給食給水班（炊出し・食糧の配分等）

②　規約の作成

自主防災組織を結成する時には、次のようなことを定めた規約を作成しましょう。

- どの範囲の地域（住民）を対象とした組織であるか。
- どのような活動を行うのか
- 役員（会長等）の役割　など。

③　活動計画（防災計画）の作成

皆さんでどのような活動を行うのが良いか考え、年間の活動計画を立てましょう。

活動内容は、多岐にわたりますので、まずは、地域の実情に応じた暫定的な目標を立て、活動を進める中で徐々に修正していく方法が良いでしょう。また、町内会や自治会などの行事と兼ねて、訓練や啓発活動を行うのも有効な方法です。

目標を立てる際には、具体的な目標とする方が活動を継続しやすいと思われますし、年度毎に重点項目を決めるのも良いでしょう。

7．普段（平常時）の活動のポイント

①　災害への備え

防災資機材の整備や備蓄品の管理をしましょう。

資機材等	
バール	土のう
ジャッキ	消火器
のこぎり	消火器格納庫
スコップ	バケツ
つるはし	ホース
ハンマー	小型動力ポンプ
斧	組立水槽
チェーンソー	投てき水パック
工具セット	メガホン
はしご	トランシーバー
ロープ	ハンドマイク
ブルーシート	避難誘導旗
テント	防塵マスク
寝袋	防災用資機材倉庫
簡易トイレ	腕章
担架	防災服
三角巾	鍋
車椅子	かまど
リヤカー	備蓄燃料
発電機	調理器具
発電機用携行缶	炊飯袋
投光器	
コードリール	

備蓄品等	
乾パン	ティッシュ
アルファ米	ウェットティッシュ
缶詰	カセットコンロ
飲料水	ビニールシート
懐中電灯	トイレットペーパー
ラジオ	使い捨てカイロ
ホイッスル	洗面用具
携帯電話充電器	粉ミルク
乾電池	哺乳ビン
医薬品	紙おむつ
貴重品	生理用品
ヘルメット	お尻ふき
衣類	携帯用トイレ
マスク	常備薬や処方箋
雨具	保険証（コピー）
タオル	母子手帳
紙食器	緊急連絡カード
割り箸	
軍手	
ライター	
ろうそく	
ナイフ	
缶切り	

※ 備えておくと良いものの一例です。地域や家庭の実情に合わせて準備しましょう。

②　被害軽減のために

日頃から地域の危険個所や避難路等の確認をしておきましょう。

ア）危険個所等の把握

崖やブロック塀、水路など災害時において危険が伴う位置の確認や消火栓などの位置の把握

イ）避難所や避難経路の確認

避難所の場所（複数）の確認や避難する際の経路に危険がないかなどを危険箇所等の把握と併せて確認しておく

ウ）防災マップの作成

消火栓、避難所、集会所や危険個所等を記載したマップを作成して、日頃から皆さんで確認しておくようにしましょう。

③　広報活動

火災予防などを含め、防災に関する情報を回覧板や情報誌等により、地域の皆さんに周知しましょう。

お知らせする内容は、市や消防署からのお知らせ、消火器の点検の呼びかけや応急手当の方法など、防災に関わるものを載せて皆さんの防災意識の向上を図っていきましょう。

地震が発生したら

地震発生

- まず、身を守る（座布団などで頭を保護）
- 揺れが収まったら、火を消す
- ドアや窓を開けて、脱出口を確保する

１～３分

- 火元の確認（ガスの元栓を閉めブレーカーを切る）
- 火が出ていれば、落ち着いて初期消火をする
- 家族の安全を確認する
- 割れたガラス等から足を守る（スリッパ等を履く）
- 津波やがけ崩れ等の危険予想地域は、すぐ避難

３～10 分

- 隣近所へ声をかけ助け合う（けが人などの確認）
- 近所に火事がないか確認する
- 火災時には協力して初期消火する

10 分～数時間後

- ラジオやテレビで正確な情報を収集する
- 市役所や自主防災組織などからの情報を確認する
- 「災害用伝言ダイヤル（171）」等を活用する
- 家屋倒壊の危険があれば、すぐに避難する
- 自主防災組織としての活動を開始
  （被害情報の収集や消火、救出救護活動など）

数時間後～３日

- 協力して消火活動や救出、救護活動、情報収集する
- 倒壊家屋や、その危険性のある家には入らない
- 水や食糧の確保（備蓄品を活用する）

避難生活

- 市や自主防災組織等と協力して避難所を運営
- 災害時要援護者等に配慮する
- プライバシー保護に気をつける